

## 留学生インタビュー

私たちが普段当たり前だと思っていることも、留学生の視点から見直すことで新しい発見がたくさんある。彼らへのインタビューを通じて日本を再発見してみたいと思う。第1回は韓国人留学生。この春入学した、文学部1年でソウル出身のキム・ソヨンさんと商学部1年で釜山出身のカン・ミンジさんに日本や慶應大学での生活についてきいた。

Q：まず初めに、日本の大学への留学を決めた理由を教えてください。

ソヨンさん（S）：ある一冊の本との出会いがきっかけでアジア貧困問題に関心を持ちました。そのため、アジアで最初に経済発展を遂げ、幅広い分野で国際貢献をしている日本で勉強するのが良いと考えました。

ミンジさん（M）：私は幼いころから漠然と留学に興味がありました。高校生のときに第2外国語で日本語を選択したことをきっかけで日本の文化にも興味をもち、ドラマ『花より男子』をみたことで日本への関心が益々高まり、留学を決めました。また将来は、現代のグローバル社会のなかでマーケティングや広告の仕事をやりたいと思ったため、韓国でだけ勉強するのではなく他の国の文化や価値観に直接触れる経験をすることが役立つと考えました。

Q：日本での生活で何か驚いたことがあったら教えてください。

S：いま私が住んでいる部屋で驚いたことがあります。それはトイレとお風呂が別になっていることです。韓国の一般的な家ではお風呂、トイレ、洗面台が一緒になっています。家ではシャワーだけを使う人が多く、お風呂に入りたくなったら銭湯に行きます。最近では最初から浴槽自体がついていないという家もありますよ。

M：私は一人暮らしをしているのですが、日本のスーパーで一人暮らしをしている人のために野菜がばら売りされていたり、あらかじめ切ってあったりすることに驚きました。私は自炊をあまりしていませんが、節約のために素晴らしい知恵だと思いました。

Q3：慶應大学での生活はどうですか？

S：日本での大学生活はとても楽しいです。慶應大学にきて、私が驚いたことはキャンパスにいる女の子の多くがスカートをはいていることです。韓国の大学では女の子もTシャツにジーンズという子もたくさんいます。実はゴールデンウィークに韓国に行ったとき、私もワンピースを買いました。負けないようにと思って。

M：日本と韓国では男子学生のファッションも少し異なります。韓国では多くの大学生がスニーカーを履いているのに対して、日本の学生の多くが革靴やブーツを履いているように思いました。

Q：日本の習慣や言葉について面白いと思うことはありますか？

S：日本ではいま、草食系男子という言葉が広まっていると聞きました。あまり積極的に女性に対してアプローチをしない男性を表すとても面白い言葉ですね。韓国の男性は日本の男性よりも積極的で、連絡もこまめにとる人が多いように思います。韓国のカップルは毎日会うことも珍しくないのに、日本ではカップルが会う頻度が週1度でも一般的だと聞いて、とても驚きました。

M：日本人がエスカレーターの右側を空けて乗る姿が面白いと思いました。韓国では安全のために2列に立って乗ることが正しいとされています。急ぐ人の片側を空けようという考え方は、せっかちなために生じるのでしょうか。興味深いと思いました。

三田キャンパスでは、今後も様々な留学生と彼らの発見について紹介していきたいと思  
います。

石川拓己、イ・チャンヨン